

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和7年度第1回松阪市学校給食推進委員会
2. 開 催 日 時	令和7年10月28日（火）午後3時00分～午後4時30分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 5階特別会議室
4. 出席者氏名	（委 員）◎阿部稚里、四十崎智仁、小泉恵希、○村田佳之、大西千晴、富田光博、田中美帆子、深田真由、橋本淳平、鯖戸睦美、巽利恵、熊野佳幸 （事務局）中田雅喜、瀬古英司、北川顕宏、橋本直也、中田純子、小林祐規、若林奈津実
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局給食管理課 TEL 0598-61-1155 FAX 0598-28-7312 e-mail kyusyoku.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 委員の委嘱について
2. 役員選出について
3. 課題と現状説明
4. その他

令和7年度松阪市学校給食推進委員会議事録

日 時 令和7年10月28日(火) 15時00分～16時30分

場 所 松阪市役所 5階特別会議室

出席者 (委員) 阿部稚里、四十崎智仁、小泉恵希、村田佳之、大西千晴、富田光博、
田中美帆子、深田真由、橋本淳平、鯖戸睦美、巽利恵、熊野佳幸
(事務局) 中田教育長、瀬古参事、北川所長、橋本所長、小林係長、中田係長、
若林

それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和7年度第1回学校給食推進委員会を開催させていただきます。

本日は、ご多忙のところ当委員会にご出席いただきありがとうございます。私、松阪市教育委員会事務局給食管理課の中田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

委員会に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。ファイルの中に、事項書、委員名簿、諮問書、資料1～4、学校給食推進委員会規則の計9枚綴じられていますので、ご確認ください。また、会議記録のために、録音をさせていただいていますので、ご了承ください。

1. 学校給食推進委員会委員の委嘱について

それでは、事項書に基づき進めさせていただきます。事項書1「学校給食推進委員会委員の委嘱」についてです。教育委員会教育長中田より、委嘱状をお渡しさせていただきます。座席の都合上、阿部様に続いて、席の順に委嘱状をお渡しさせていただきます。

ありがとうございました。

2. あいさつ

続きまして、事項書2 あいさつです。松阪市教育委員会教育長中田雅喜よりごあいさつ申し上げます。

皆様大変お忙しい中お集まりをいただき、ありがとうございます。

今回は、本市の学校給食を通して子どもにどんな力をつけていったら良いのか、そのための環境や食教育、支援の体制はどうなのかということ、或いは、それを行う上で地域の方との連携をどうしていったら良いのか、様々な角度から、本市の学校給食、ひいては本市の食教育について、ご提言をいただきたいと思います。

この後いくつかの諮問事項を申し述べさせていただきますが、今子どもたちを取り巻く環境、とりわけ食教育に関わっては様々な課題があります。

近年の物価高により、栄養教諭さんは予算の範囲内で献立を作ることに本当に苦労されています。またそれに基づいて調理員さんが、調理をしてもらうという流れで限りがあります。

その中で、今後も給食の中でどのように地産地消を取り入れたり、子どもたちの食教育の視点を入れた学校給食を実施していくのか。

また国においては無償化という議論が出ています。これに関しては多くのハードルがあります。法改正を行わなければならなかったり、交付税措置をするのであれば、不交付団体と交付団体との差をどうしていくのか、補助金にする場合は、その補助率をどうするのか、越えなければならないハードルがたくさんあるのに、4月からという話が先行しています。

そういったことを念頭に置きながらも、子どもたちが給食の中から見えてくる課題を通

してどんな力をつけていくのか。また、それをどのように支援していったら良いのか。その立ち位置は、見失ってはいけないと思っています。

限られた時間で、限られた回数の中ではありますが、それぞれの立場から、ご議論をいただき、またご提言賜れば幸いと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

3. 委員紹介

続きまして、事項書 3 委員紹介です。今回が初回ですので、所属、お名前の自己紹介をお願いしたいと存じます。

阿部様より順にお願いできますでしょうか。

ありがとうございました。事務局も順に自己紹介をさせていただきます。

皆様どうぞよろしくお願いいたします。

4. 役員選出について

続きまして、事項書 4 役員選出です。

お手元の資料にも配布させていただいておりますが、学校給食推進委員会規則第 4 条に基づき、委員長、副委員長を決めさせていただきたいと考えております。どのように決めさせていただきますでしょうか。

事務局一任でお願いします。

ありがとうございます。事務局一任とのお声をいただきましたので、ご指名させていただきます。

それでは、委員長を津市立三重短期大学教授、阿部稚里様に、副委員長を鎌田中学校長、村田佳之様をお願いさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

それでは、委員長、副委員長より順にお一言ずつお願いいたします。

《委員長》

松阪市の子どもたちにとって、よりよい学校給食になりますように、皆様と一緒に議論を深めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

《副委員長》

子どもたちの今の学校現場を見ていますと、給食は子どもたちの生活にとって大きな割合を占めていると思います。

その給食ですが、近年の物価高の中で、様々な苦勞をしながら、給食センター等で工夫をしていただいておりますところだと思います。

今後も子どもたちのために、どのような給食が良いのかということをしっかりと皆さんと議論をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

5. 諮問事項について

続きまして、事項書5 諮問事項についてです。

松阪市教育委員会教育長中田より、諮問書を委員長へお渡しいたします。

諮問書読み上げ

諮問書につきましては、皆様のお手元にもお配りしております。

中田につきましては、公務のためここで、退出させていただきます。

それでは事項書6 協議事項に進ませていただきます。本日の委員会では、学校給食の組織運営についてご協議いただいたいと考えています。

6. 協議事項

ここからの議事進行につきましては、委員長阿部様にお願いいたします。

阿部様よろしくお願いいたします。

それでは事項書に沿って、学校給食の組織運営について、事務局より説明をお願いします。

学校給食の組織運営についてご説明させていただきたいと思います。

資料1から3まで続けて説明させていただきたいと思います。資料1の上段をご覧ください。

現在、松阪市における学校給食については、平成17年の市町村合併以来、地域単位で継続してきた給食会計で運営が行われ、現在4つの会計組織があります。

松阪市学校給食協会、松阪市学校給食センターベルランチ連合協議会、松阪市北部学校給食連合協議会、松阪市飯南飯高学校給食センター連合協議会の4つの組織で運営され、各々が独立した組織となっております。

会計以外にも献立、食材の調達、献立委員会を初めとする各種委員会の実施についても、各々の会計組織で実施しているところでございます。

松阪市学校給食協会は、1日の喫食数が表にあります通り、5900食、予算規模は3億4000万円で、市内の給食調理場を学校内に持つ24校が構成の給食運営の組織となっております。

次に松阪市学校給食センターベルランチ連合協議会です。1日の喫食数が3300食。予算規模は概ね2億円となっております。市内すべての幼稚園と旧松阪市の中学校7校で構成する、給食運営の組織となっております。

次に松阪市北部学校給食連合協議会です。1日の給食数が3200食。予算規模は約1億8000万円で、旧嬉野町と旧三雲町の小中学校10校で構成する給食運営の組織となっております。

最後に松阪市飯南飯高学校給食センター連合協議会です。1日の喫食数は約430食、予算規模は約2600万円で、旧飯南町と飯高町の小中学校6校で構成する給食運営の組織となっております。

またこの組織につきましては、飯南学校給食センターと飯高学校給食センター森調理場の2つのセンターの運営を行っており、飯高学校給食センター森調理場につきましては、香肌小学校1校のみ、30食の調理を行っているところでございます。

この4つ会計規模は、一日に1万2800食、予算規模は7億4600万円の合計となっております。

長く続きましたデフレが終了しまして令和4年ごろから物価の上昇が始まっております。

近年の急速な物価高騰により、4つの給食会計には大きな変化が生じております。

資料1下段の表をご覧ください。市内小中学校の児童生徒の今後の推移表が示されています。今後、少子化がだんだん進んでいくことを、表で示させていただいたものになります。

今後、児童生徒が減少すると 4 会計の会計規模も、徐々に縮小していくことが読み取れる資料になっております。

また継続する物価高騰が各給食会計を直撃しており、各給食会計の収支決算状況に顕著な格差が表れるようになってきております。特に飯南飯高等学校給食センター連合協議会は喫食数も少なく、会計規模も小さい上に市外から少し離れている山間部の地域になっております。地域が少し離れているというところから、食材納入業者も限られ、危機的な状況にあるということがあり、諮問書でも少し触れさせていただいているところでございます。

各組織で事務処理も重複しているなど課題もありますので、今後の組織体制について検討する必要性が出てきている中で、今日の会議に繋がっております。

今回協議をいただくにあたり、その背景となっております学校給食の物価高を指し示す資料として、資料 2 のご説明をさせていただきたいと思っております。

資料 2 上段の表をご覧ください。

これは令和 2 年を基準とした、消費者物価指数の推移表になっております。令和 4 年度から毎年のように物価が上昇しているのが、数値として確認していただけるのではないかと思います。令和 7 年度は、8 月までの指数になりますが、令和 2 年度との対比で 20% を超えている状況となっております。

次の表ですが、学校給食を構成する主食であるコメやパン、牛乳と副食の年度別比較として、令和元年からの令和 7 年にかけての価格上昇を表にまとめています。給食費は平成 30 年 4 月の改定以降、据え置いていることから、現在の小学校中高学年の 1 食当たり単価 270 円の場合、単純な計算として、主食 20.68 円、牛乳 16.6 円の値上がりにより、副食にしわ寄せがでてくることを表したものです。

実際には、市が給食費の支援を行っていることで、この影響は緩和されています。

そのほかに、主要な副食食材についても令和元年と令和 6 年の比較を行っていますが、いずれも価格は上昇していますし、令和 7 年度に価格の改定があり、大きく価格が改定されたものもあり、まだまだ物価の上昇は続いていると感じています。

また、資料下段の牛肉、デザート等の提供回数比較資料では、令和元年と令和 6 年では、牛肉の年間使用回数が 26 回から 11 回と半分以下になっています。同様にデザート、果物類も半減しています。

このように細かな食材の比較を行うと、物価高騰の影響が大きく献立に影響していることがわかるかと思います。

続いて、資料 3 をご覧ください。資料 3 については、この物価高騰に対して令和 5 年から令和 7 年にかけて実施しました市の物価高騰に支援についてまとめさせてものになります。

松阪市では、物価高騰が子育て世帯の保護者負担とならないよう、給食費の価格高騰分を「学校等給食物価高騰に伴う子育て支援交付金」として市が支援しています。この事業は令和 5 年度より開始し、喫食者数を基に支援額を算出したうえで、各給食会計に支払っています。支援率は、食材の価格上昇分として令和 5 年度が給食費の 5%、令和 6 年度が給食費の 10%、令和 7 年度が給食費の 15% を支援しており、各年度の交付総額は

令和 5 年度が、給食費の 5% で 30,000,000 円 程度

令和 6 年度が、給食費の 10% で 58,000,000 円 程度

令和 7 年度が、給食費の 15% で 85,000,000 円 程度となっています。

3 年間で総額、1 億 7 千 4 百万円ほどの支援を行っている状況です。

中段の表は、左から 2 行目が現在の給食費（保護者負担額）と下段の（）内が 1 食当たりの額になっています。

幼稚園と小学校（低学年）が月額 4,400 円で一食当たり 264 円

小学校（高学年）が月額 4,500 円で一食当たり 270 円

中学校が月額 4,800 円で一食当たり 289 円

この表の右端が、令和7年度になります。今年は給食費に15%の支援を行っていますので、現在の給食を実施するために本来必要な給食費となっています。幼稚園と小学校（低学年）が月額5,060円、小学校（高学年）が月額5,175円、中学校が月額5,520円となっています。

また、これ以外にも昨年度から今年度にかけて米の値上がりが続いていることから、さらなる支援についても検討が必要な状況です。

このように現状、保護者様に負担いただいている給食費のみでは、学校給食の質や量を維持した給食の提供は困難となっております。また、この給食費については、給食食材に係る費用のみとなっています。学校給食に係る費用としましてはその他、市が負担している事業費もあります。

資料3の下段にはこの支援事業の課題を掲載しております。

この物価高支援については国や県の交付金等を活用しています。そのことから恒久的な財源ではなく、継続支援については、財政的な部分が大きく影響することが課題として挙げられます。

また、この支援は喫食数を基礎数として各会計に一律の補助を行っています。山間部まで食材を配送することへのコスト高などには、公平性の観点から個別の事情を反映できないなどが課題であると捉えているところです。

以上、給食会計組織とそれを見直すに当たり、現状の物価高について説明をさせていただきました。事務局からは以上の説明とさせていただきますよろしくお願いします。

ありがとうございました。

事務局の資料の説明について、気になる点や聞きたいこと、また、現在の組織運営について、このような課題があるなか、今後の組織運営について委員の皆様のご意見をお聞きたいと思っております。ご意見がある方は、どうぞ挙手をお願いします。

皆さん初めて資料をご覧になって、まだ見比べているところだと思いますが、私の方からよろしいでしょうか。

《委員長》

今回は組織運営についてということですが、現在、松阪市は4つの会計組織で運営を行っているとのことでした。

これについて現状、何か現場で出ている課題や行政の方でこれが課題だなと思っていることがもしありましたら教えてください。

《事務局》

課題として捉えている部分をお話しさせていただきたいと思っております。先ほどの資料を説明する中でもお伝えしましたが、給食費は市内一律の料金を設定しております。しかしながら、それぞれの会計の支出は異なっております。

4会計が4献立を立てて、それぞれに食材を調達しているということから、決算も個別に行っており、その決算状況においても濃淡が現れています。

小さな会計組織と大きな会計組織では、当然扱う量も異なる上に、距離的な問題もあります。

そのようなことから、収支に大きな差が出てきているという現状があります。

先ほど、市が行っている支援の課題として挙げさせていただきましたが、一律の支援を行っているため、個別の支援にまで手が届かないということに繋がっています。

山間部であるために起こる配送の問題など、それぞれ各会計単位で運用方法が違う部分がありますので、それぞれの課題がある中で会計に大きな差が生まれてきているというの

が現状です。

これまではデフレの状況の中で、大きな問題となっておりませんでした。物価高で顕著に各地域において大きな差が生まれてきていることを課題の一つとして挙げさせていただきます。

また現在、市から補助をさせていただいています。見ていただいた通り、市からの補助がないと運用が難しくなっている状況があると感じております。今後、補助をいつまでさせていただけるかという問題もありますので、そのあたりも踏まえ、会計の維持をしていくにはどうしたら良いのかというところも課題としてとらえているところでございます。

《委員長》

ありがとうございます。

委員の皆様から、何かご意見ございませんか。

《委員長》

個人的な質問ですが、収支に大きな差があるということで、赤字になっているところがあるということでしょうか。

《事務局》

赤字にはなっていませんが、赤字になりかけている部分はあるかと思います。市から赤字にならないような形で支援をさせていただいていますので、今回も 15%の範囲内で赤字にはならないと認識しています。

ただし、特に山間部については厳しい状態が続いていると捉えています。

《委員長》

つまり、赤字にならない範囲で献立を作成するということでしょうか。例えば規模が大きなところと山間部では、子どもたちが食べる給食の内容に差が見え始めてきたという理解でよろしいですか。

《事務局》

献立は 4 献立ありますが、それぞれが精一杯努力させていただいていると思います。

献立が異なりますので単純には比較できません。当然カロリー等の基準は担保した上で、一生懸命献立を作らせていただいていると感じています。

《副委員長》

松阪市は素晴らしいことに新しい市になって 20 周年ということで、各地で行事をしていますが、統合後もう 20 年たったんですね。

ただ、給食センターは依然として旧市のまま 4 つです。地域間でこれだけの差があるということでしたが、今まで 20 年間 4 つの献立をそろえていこうという話はなかったのでしょうか。

《事務局》

今まではありませんでしたが、現在このような状況になっているという事実がありますので、検討する必要があると考えています。

施設によって献立も変わってくると思います。例えば単独調理場で調理可能な献立と給食センターで調理可能な献立というのは、同じではないと思いますので、子どもたちに提供する給食として、どこまで統一できるのか、例えば材料の調達等も今後考えていく必要があると考えています。現在は会計が別のため実現できないこともあり、今回ご協議いただく会計組織の問題というのは、1 つ課題となってくると考えています。

《副委員長》

先ほどの回答を受けて、今までは会計が別なので献立が別でも苦情は出なかったと思います。今後、会計を一緒にして献立だけが別となり、格差が残るとなると、食材が高騰しているところの分を安価に仕入れられるところが補うというようなことが顕著になってくるというのも課題だと思います。

食材の調達方法や仕入れ方法など詳しいことはわかりませんが、そのあたりをきちんと整理した上で、総合的に考えていかなければ、急に進めるというのは難しいのではないかと思います。

《事務局》

ありがとうございます。

現在 4 会計で運営している中で、事務仕事も含めて統合するということは、非常に難しいことだと考えています。

会計が個別になっていることによる課題もあるため、それも含めて課題として認識しています。今後、みなさんのご意見をいただき、検討していきたいと思っています。

《委員》

前提として、どうして会計が 4 つに分かれているのか詳しく知りたいです。

市町村合併をしても、給食の運営自体は合併しなかったということでしょうか。

《事務局》

地域的な部分で残ってきた経緯はあると思います。旧市内の 24 校はそのまま給食協会に引き継がれています。飯南飯高については、飯南町は飯南学校給食センター、飯高町は飯高学校給食センターでそれぞれ個別の会計がありました。それを今は 1 つにしています。

三雲嬉野も同様に三雲嬉野の会計が個別にありましたが、北部学校給食センターができ際に、1 つにしました。

その 4 つが現在も継続して残っています。

それぞれの会計単位で献立を作成し、材料を調達しています。また、それぞれの給食施設を使いながら、合併以来継続して実施してきましたが、先ほども申しあげました通り、昨今の物価高がある中で、運営が難しくなっているため、本日の協議に繋がっております。

《委員長》

何かご質問やご意見などございませんか。

《委員》

現在食材の高騰が一番大きな課題になっていると思いますが、給食は量が多いので、仕入れ業者の選定が非常に難しいと思います。今後入札する際の条件等、様々な部分の見直しも考えられていると思います。様々な業者が入札に参加しやすいような見直しも考えていただけるのかなという思いがあります。また、献立を統一してしまうと、今以上に量が多くなるため、仕入れの問題が生じてくるかと思うのですが、いかがでしょうか。

《事務局》

本来、松阪市全体ですと 1 万 2000 食を超える食数がありますが、現在は支払いも含めてそれぞれの会計単位で行っておりますので、それぞれの会計単位で努力しています。

例えば、先ほど飯南の話もさせていただきましたが、460 食しかないところと、6000 食近いところでは、単価も当然異なるという状況は変わらないのかなと思います。

そこに関しては、会計組織を跨いで考えることが難しい状況をご理解いただきたいと思います。

その問題を解消するための1つとしては、やはり会計の部分を少し整理する必要が出てくるのかなと思っています。

その上で先ほどの、入札や調達の合理化というのは進めていくべきものだと考えています。

《委員》

会計というところを中心に、お話が進んでいるかと思うのですが、会計だけでなく、給食にまつわる様々な部分のメリットデメリットを洗い出して、総合的に判断する必要があるのかなと思います。

私は、栄養教諭という立場ですので、日々の献立を立てております。この物価高で、確かにものすごく苦しいです。どのようにして今までの質を維持して、子どもたちに喜んでもらえる良い給食というものを作っていけば良いのかというのを日々考えながら献立を立てているところです。

献立が分かれているメリット、つまり小規模のメリットというものもあると思います。会計だけではなく、やはり学校給食ですので、地物が調達しやすい、使用量が少ないので、そろいやすいというようなメリットがあります。各学校で地域学習を行っていると思うのですが、その地域学習というものと、給食の食材というものが繋がりがやすいです。

例えば私は、天白小学校に在籍しております、3年生の児童がいちじくについて学習をしています。地域でいちじくを栽培しているのですが、大量には確保しづらいです。松阪市全体に行き渡るほどは栽培されていないです。ただ、北部学校給食センターで天白小学校の給食を作っていますが、北部学校給食センターの規模ならば、いちじくをジャムにしたものが手に入るのでもそれを使ってカップケーキを作って提供しています。

子どもたちが、これは三雲の地域のいちじくだと食べてくれる。あの人が栽培しているいちじくだ。取材にも行ったなというように、より身近なため、地域のお互いにとって、生産者の方ももちろんですし、児童もその食材に対して親しみをもち、地元への愛着というものも生まれやすいです。同じ松阪市内でも、少し離れたところだとなかなかぴんとはなかったりしますが、そのようなメリットも学校教育という考え方ではあるのかなと思います。

また急な物資変更にも対応しやすいです。仮に何かの食材が何かの事情で使えないというときに、量が少ないから代替りのものを調達しやすい。

例えばアレルギー対応について、児童や生徒に対応していますが、うちにはこのアレルギーの子がいて、このアレルゲンが入ってない物資だったら、調達ができるというように、この規模だったら調達できるというようなこともあったりするので、小規模ならではのメリットです。

そういうことも含めて学校教育としてという部分や会計の部分を経営的に見て、何とか運営を維持していくための落としどころを探っていく必要があるのではないかなと思います。

《委員長》

ありがとうございます。事務局どうぞ

《事務局》

当然、食育は学校教育に繋がるものですので、そこを無視することはありません。

ただ、すべてを議論しようと思うと多様な項目を調整する必要がありますので、ここでは会計組織に絞った議論にさせていただくことをご理解いただければと思います。

飯南は460食程度だからこそ、地域に根差した給食が提供できるという部分もあるかもしれませんが、逆に小規模だから提供できないものもあると思います。

効率など合理的な部分だけを求めるというようには考えてはいませんが、現状は会計的に困っている部分もありますので、解消をしていく必要があると考えています。

給食管理課は給食を所管する課ですので、食育を無視することではなく、それを担保した上で様々なことを考えていきたいと考えています。

《委員長》

その他、何か皆様方からご意見やご質問などございませんか。

《委員》

ここまで、市町村合併等の歴史的経緯も、ご説明いただいたかと思います。そのような過去から見てくると、中学校も以前はお弁当で学校給食がないところから、給食センターで作られたものが提供されるようになり、給食化が進んできていると思います。

始まった当初は、やはり給食センター等で作られたものが学校まで運ばれてくる間に、冷めてしまうということや味も落ちてしまうというような声がありました。

ですが最近では、保温の技術や調理の部分でも様々な工夫をされているのだと思うのですが、様々なものが美味しく提供できるような状況が整ってきているのではないかと感じています。

学校現場にいと、物価高騰分を保護者に負担をしていただいているので、心苦しい面が多々あります。

例えば社会見学や修学旅行のバスの手配1つにしても、単価がすごく上がってしまい、バスの予約がしにくくなったり、できたとしても以前よりもかなり割高になっています。それがすべて保護者負担になってしまいますが、世の中全体としてそのようになっていきます。それを今現在、市で負担していただいているという状況もある中、メリットデメリットがあると思いますので、それをある程度明らかにしながら、この委員会でも今大事にしていけるのはこれかなというように、皆さんの意見を聞かせていただきながら作っていきなさいと思っています。

自分が新採で、今から30年前に初めて学校現場に行ったのは、この森調理場のところでした。その中で今この4つの組織をみると、あまりにも喫食数の差が激しいのだなと実感しました。

さらにその上に、飯南飯高に1つずつあるというような物理的なものも感じました。

松阪市は非常に広いので、遠くまで運ぶコストが業者さんにとっては今一番難しい部分だと思います。この状況をもって、どのようにしていくのが良いのか積極的に意見を言いたいと思っています。

特に地産地消や学校給食の持つ意味というものを皆さんがそれぞれの立場から意見を述べられると思うので、松阪市内のすべての子どもたちが、ある程度の水準を持った食育に臨めるような環境を議論していければと感じ、皆さんの意見を聞かせていただいていたました。

《委員長》

ありがとうございます。

やはりメリットデメリットをもう少し挙げて、課題を整理した方が良さそうな気がしましたね。

《事務局》

会計だけみるとデメリットはあまりなく、メリットの方が大きいと考えていますが、全体を考えれば、様々なメリットデメリットが出てくるとしています。

《委員長》

会計上は、メリットは挙げられるがデメリットはあまりないということですか。

《事務局》

市としてはそのように考えています。

本日はあくまでも会計に限った話をさせていただいておりますので、それ以外の部分については、当然メリットデメリットはあると認識しています。ただ、すべてをここで議論すると非常に時間もかかり、回数も多く重ねなければいけないことになると思います。

《委員長》

何か委員の方から、他にご意見よろしいですか。

《委員》

会計ということで、食材については非常に細かく、物価高の関係でこのように高騰しているということが挙げられていますが、資料3に令和7年度全体で15億円、食材で6億円、事業費で9億円と記載されています。食材は、これだけ値上がりをすれば流動的なものだと思いますが、それ以外の固定費について、人件費や施設の維持管理費、委託料等がどのように推移してきて、今後どのようなようになるのかも開示していただけると、議論もしやすいと思います。食材の部分にだけ特化して、高騰していますというのも非常によくわかりますが、その部分についても、給食センターが4つに分かれている部分も含めて、見直していけるのではないかなと思うので、今後示していただけると非常に助かります。

《委員長》

事務局から何かありますか。

《事務局》

言われた通り、資料に事業費9億円という数字をあげさせていただいているのは、人件費や施設を維持するために必要なもの等ですので、先を見据えるというのが難しい部分があります。

例えば現在、学校再編活性化が松阪市で進んでいます。給食施設のあり方についても大きな影響を受けますので、そのあたりも見極めながら、今後進めていかなければならないと考えています。

既存の施設が老朽化している部分もあります。給食では当然衛生管理をしっかり行わなければいけないので、必要な経費は上げさせていただいています。

学校再編活性化の中で、給食施設だけ先行する訳にもいきかないので、先の見通しを立てるのは難しいですが、全体を見極めながら将来的な費用を算出しないといけないと考えています。基本的には既存の施設を上手に活用していきたいと思っています。

《委員長》

ありがとうございます。

《委員》

もう1つよろしいでしょうか。

給食センターが、単独調理場を除いて、3つあるということでしたが、委託業者はそれぞれ別ですか。

《事務局》

給食センターは4つあります。学校給食センターベルランチと北部学校給食センターは委託で、飯南学校給食センターと飯高学校給食センター森調理場は直営です。

《委員》

会計を一本化するということは、支出を1ヶ所からしていくということですよ。飯南飯高地域の材料費がかかる場所にとってはメリットになりますが、会計が一緒だと他の

地域の食材も値上がりするということはありますか。

《事務局》

給食費は一本ですので、当然松阪市に住んでみえる子どもさんには、その給食費にみあった給食を提供するという形はその通りだと思いますし、補助も一律になっているので、どこに住んでいても同じ給食を食べていただかなければいけないということです。この差は埋めるべきだと思っています。濃淡が出るということであれば全体として濃淡が出ないように考えていくことが必要なので、今は個別に支援をしています、例えば会計が1つになったらこの1つに対して補助を入れます。今は会計単位の補助ですので、どちらが得や損という議論になりますが、一つの会計になれば、同じ給食を食べていただくための支援を全体としてさせていただけるかと思っています。会計組織間で差が出るという問題も全体として考えていけるようになる、メリットもあるかと思っています。

《委員》

子どもたちの様子を見てるとやはりこれだけの物価高ということもあり、朝ご飯を食べてきていない子というのも現状としてはいます。学校給食の重要性というものを非常に感じているところです。

子どもたちが学ぶときに必要な栄養を摂ることを考えて、給食の質の維持は続けて欲しいなと感じています。

また、子どもたちもこれだけ様々なものの価格が上がって、様々なものが変わってくると、最近のパンはコッペパンばかりで黒糖パンが無いなど、メニューの変化に気付いています。

そのような中でも子どもたちは賢く、これだけ価格が上がってもみんな頑張っているのだと言いながら楽しく食べています。

こども達も楽しみにしている給食ですので、質の維持を期待したいなと思っております。

《委員長》

他に何かご意見やご質問などございませんか。

《委員長》

例えば会計が1つになったとしても、毎日の献立が全児童同じものを食べるということは、食材の調達面でも難しいというようなご意見もありましたので、会計が一緒であっても例えば2つ程度の献立で、こちらの地域ではこれを食べるけれど、こちらの地域ではまた違うものを食べるというようなルーティンで回していくということはある、或いは考えられるのでしょうか。

《事務局》

1万2000食を同じメニューで出すことは逆に難しいと考えています。

実際に、食材の調達1つをとっても、その日でないといけないということではなく、1週間の間でならば可能であると思いますので、先ほどおっしゃられたようなアイデアを出しながら、実施可能なことを検討していくということになるかと思っています。

食育や地場産物の調達についても、アイデアを出しながら行っていくことは、当然給食を提供する中では必要なことだと思います。

《委員長》

それでは個別性と言いますか、その地域で出せるものを会計が一緒であっても考えられるということでしょうか。

《事務局》

考えられると思います。単に会計上のお金の動きが個別になっているため、会計を跨ぐことは難しく、弾力的な使い方はできないという現状ですが、今も各会計単位で一生懸命やっています。

《委員長》

他に何かまだ発言されてない方、いかがでしょうか。

《副委員長》

正直な話をさせていただくと、ここで初めてこの資料を見て、何がメリットデメリットかを判断するはすごく難しいなと思っています。

これからの給食がこんな姿になったらいいなところから考えると、やはり会計は、今の補助金同様、国としても無償化になるかどうかわかりませんが、それもおそらく一律の予算で来ると思うので、一本にしておく方がいいのかなと漠然と感じました。

ただ、先ほど委員さんが言われたように、やはり地域性も生かしたいということと、距離によって同じ食材を調達したとしても、それにかかる費用が違うことなどを、市で一律で見ていこうという発想だと思うので、一体それがどんなメリットがあって、何がデメリットなのかというところを出していただいて、そのデメリットの解決方法はこのような方法があるよねという話ならば、もう少し出せるかなと思います。

今日初めてみなさん資料を見ているので、意見が出しにくいと思います。今後は、提案されたように、これからの国の動き、それに伴う市の動き、今までの補助金の一律性を考えたときには、一本化するっていう前提でもう少しこのようなことも考えていかなければいけないよね、課題はどうやって解決していくのかというあたりに議論が及ぶといいなと漠然とですが思いました。

《事務局》

みなさんの率直な意見を様々な形で反映していきたいという思いはありますので、食育の形であるとか、予算の話など多岐に渡るかと思っています。

メリットデメリットについては、一本化した場合どうなるのかを提示させていただきたいなと思っています。

《委員長》

ありがとうございます。

委員の皆様方から、せっかくの機会ですので、何かご発言いただければと思います。何か保護者の方から子どもたちの様子を合わせて、ご意見いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

《委員》

自分の中学3年生の子どもの話でしかないのですが、以前中学校はお弁当で、何年か前に給食に変わったときはやはり、ごはんがちょっと冷たくなったとか、ベチャベチャしたりと、あまり先輩方には評判が良くなかった時期もあったと先輩ママから聞いていたので、自分の子どもを中学校に入学させる際に、とても給食が大好きだったので、中学校の給食美味しくないのかなと不安がっていたのですが、いざ入ってみたら、非常においしいと言っていて、おかわりしたいけれどみんなおかわりするから、足りないとお腹をすかせて帰ってくるぐらいです。

でも給食すごく楽しみにしているし、下の子はまだ小学生ですけども、3限目ぐらいから良いにおいがしてきて、4限目になると、においでお腹が鳴ると言っています。

本当に給食を子どもたちは楽しみにしているし、まわりの子たちも給食は嬉しい、給食関係の職員さんと関わるのがすごく大好きと言っているのです、やはり質などを絶対低下させないでほしいというところだけ保護者として強くお願いしたいです。ですので、そのコ

ストだけは絶対にかけて欲しいなと思っています。

《委員長》

ありがとうございます。

小学校の保護者代表さんから、コストのお話がありましたが、他に子どもの様子や学校給食についてご家庭でも何かありますか。

《委員》

先ほど発言された方や校長先生とはちょっと逆の意見で、これは私の小学生と中学生の子どもたちの意見です。

たまたまかもしれないですが、やはり小学校の給食は、もちろんその場で作っているのが非常に温かくておいしいと言っています。ただ、中学校に行くとやはり給食があまり美味しくなくなると言っています。それはもちろん、子どもたちの一部かもしれませんが、そういった声もあるので、全く同じは難しいとは思いますが、そのような声を吸い上げるというのも非常に大切だと思うんです。

美味しいものを提供しているから、このように値段もかかるし、今後値上げをしていくのであればこういったものは求めますというのとも言えると思います。美味しい美味しくないは個人の差があるので、絶対揃わないのですが、そういった保護者代表の声だけではなく、実際に食べている子どもたちの声などを吸い上げて、それを資料として提示していただくのも非常にいいのではないかなと思います。

《委員長》

ありがとうございます。幼稚園も給食を実施していると思いますが、いかがですか。

《委員》

子どもたちの給食の時間が始まる少し前にベルランチさんが届けてくれるので、いつも温かくておいしい給食をいただいている状態です。ですので、すごく子どもたちも給食を楽しみにしています。

上の子が小学校に行っているのですが、やはりそこでは給食調理場があるので、温かくおいしい給食が食べられるということで、いつも季節のメニューもすごく楽しみにしています。保護者同士の話では、給食費がこの保護者負担でよくここまで出してもらえているなという話は出ています。

幼稚園ではないのですが、小学校の方で授業参観があり、どこを見に行ってもいいということでしたので、給食を見に行きました。

どのような感じで食べているかなと思って行ったのですが、みんなおいしそうに食べていて、子どもたちによって、食べる量は非常に差があって、たくさん食べる子もいれば小食の子もいるという形でした。そこでもお母さん方は、結構食べているなと言っていました。

今、とても物価高でどんどんいろんなものが値上がりしている中で、給食費が上がってもおそらく仕方ないのではないかなと思うのではないのでしょうか。もちろん上がって欲しくないという気持ちは大前提ですが、子どもたちが美味しく、質のいい、きちんとお腹が満たされる量を食べるためには、やはり給食費の保護者負担が上がってもそこは子どもたちのためだなと思う保護者もいるのではないのでしょうか。

やはり上げて欲しくないという人もいます。でも私としては上がっても、きちんと食べられて、お腹いっぱいになって帰ってきてくれるほうが嬉しいかなと思うので、1 意見として発言させていただきました。

《委員長》

ありがとうございます。

会計を広く1つにしていって、どこかを値上げしてどこかをそのままということはしないということですか。

《事務局》

基本的に差をつけるつもりは一切ないです。

市としては、給食費は一本一律でいきたいと思っておりますので、その方向で様々なことを考えていきたいと思っています。

様々な保護者さんから意見をいただく中で、幅広く意見を求めていきたいと思っています。

《委員長》

ありがとうございます。

他に何かご意見やご質問等ありますか。

《委員》

幼稚園も長い歴史がありまして、最初の頃は週に2回の給食でした。隣の小学校から、その当時私は松尾幼稚園にいたのですが、隣の小学校で作っていただいたものを運んでもらうという形だったんです。その給食以外の日は、保護者様が作ってもらったお弁当でした。

それが、週に完全5日給食になるとなったときに、職員はちょっと反対した経緯もあったんです。やはり、お母さんと言ってしまうとあれですが、お母さんが作ったお弁当を食べてもらいたい。そこで親子の繋がりも大事にしていって欲しいという思いもあって、給食に反対した時期もあったんです。

ところが、中学校も完全給食になって、幼稚園も小学校からではなくベルランチから給食を運んできていただくようになって、それが浸透したら、やっぱりみんなで同じものを食べるって、それもすごく大事だなって思いました。

いつの間にかそういう流れになって、今ではお弁当なんて考えられないような、当然職員も弁当を作って持ってこないといけないので、みんなで同じものを、同じように食べるという、本当に給食のありがたさを感じています。

あれだけの給食費でこんなに野菜もふんだんに使ってもらって、本当にありがたいなと思っています。

地産地消で家庭ではなかなか用意していただきにくいような食材、まこもであったりとかまつしかしめじとか、地域で採れる食材のことも給食だよりにたくさん紹介していただいて、そんなことも子どもたちに話ししながら毎日給食をいただいています。

その中で会計を1つにというのは、なかなか難しいのかもわからないのですが、新しいところへ向かっていくって、何かやはり反対が起こったりとか、今までの慣れたことがみんな一番安心してしまうので、そんな考えは上手くいかないのではないかと頭が先に働いてしまうこともありますが、何か新しいことへ希望を持って、動き出していったらいいかなと思いました。

《委員長》

ありがとうございます。

《委員》

事務局サイドですが、去年まで殿町中学校の校長をさせていただいていました。その前は飯高中学校で校長をさせてもらっています。

給食の前には検食として校長が先に食べるのですが、飯高と殿町と経験させていただいて、大体4品から5品ですけれども、明らかに殿町の方が5品の日が多いです。

品数だけで良いとか悪いとはなかなか言えないのですが、食べている方はすべておいし

いし、全然不満はないんですけれども、例えば配送料であったり、たくさん調達すると仕入れが安かったりすることで、子どもたちの給食に差が出ているのであれば、非常にかわいそうだなと思います。

飯高の場合はいつも残渣が全くなく、いつも調理員さんや栄養士さんからも嬉しいわというような言葉をいただいていたのですが、殿町の場合は残渣がすごくあって、すごく余っていました。牛乳も捨てていますが、本当にそれを見るのがつらいぐらい差があるんですね。

ですので、もしそういったところで、喫食数が少ないところが、損というか、マイナスになるのであれば、やはり一律にしてあげたほうがいいかなと私は感じました。

《委員長》

ありがとうございます。

まだご発言いただいてない方はみえますか。

《委員》

私は給食調理員ですので、給食を毎日頑張って作っております。

本当に最近お肉がとても少なくなって、野菜の量が多くなって、腕が腱鞘炎になりそうです。そこは仕事なのでどうしようもないのですが、やはり自校式なので、子どもたちの声が聞けるという良さがあります。今日は何が美味しかった？と聞くとゼリー！そうでしょうね、というやりとりがあり、忖度の無い子どもたちの声が聞けるというのが、とても嬉しいかなと感じます。

ですので、やはりデザートのようなものが物価が高くなって、果物も無くなって、ジャム等も少なくなって、ゼリーも無くなってというところが、何か改善できればいいと思うのですが、調理員の力ではなかなかできないというところでもあります。

あとは、建物などの老朽化であったり、機械の老朽化も進んでいますので、その中で衛生管理などでいろいろと苦労していかなければいけないというところもあるので、そこも含めて運営というものを考えていただければいいかなとは思っています。

飯高で30食を作っているところがありますが、そこはもともとセンターだったので、大量調理をする場所であるにもかかわらず30食という調理をしなければいけないです。例えば家庭で3人分のカレーを作るとなると小さめの鍋で作ると思いますが、それをあえて大きな鍋で作りませんよね。飯高では、とても大きな釜でこの少人数を作らなければいけないなど、現場もいろいろと工夫しながら頑張っている状態です。

そういうところも含めて私も意見が言えればいいと思うのですが、ちょっと難しいことはあまりわからないので、いろいろと皆さんの意見を聞かせていただければなと思っております。

最後になってしまい、申し訳ございません。ありがとうございました。

《委員長》

ありがとうございました。

これで大体皆さんから意見をいただいたと思うのですが、何かまだ言い足りないというようなことがございましたらお願いします。

それではそろそろ時間にもなってきましたので、この後の協議の進め方につきまして事務局何かありますでしょうか。

《事務局》

はい。追加で資料4という形で、入れさせていただいている部分がありますので、そこを少しだけ説明させていただきたいと思います。

飯南・飯高管内における課題として少し補足をさせていただきます。資料4をご覧ください

さい。飯高等学校給食センター森調理場における学校給食の課題です。

飯高等学校給食センター森調理場は、先ほど委員さんからもありましたように少数調理の難しさもあり、さらに市域の中でも山間部にあり、燃料費、人件費など物価高騰や人材不足を背景に、森調理場へ給食食材を直接納品できる業者数が限られています。

給食に使われる食材の一部は、北部学校給食センターに届けられたものを職員が森調理場に届けるなどしています。

アレルギー対応も必須であり、食材も例えば切り身は調理員さんが切っているわけではなく、切っていただいたものを納品していただく必要があります。そのことから給食専用物資を取り扱う事業者からの供給は必須であり、これまで頑張ってもらっていましたが、森調理場はやはり遠すぎるという話が出ており、今後、給食食材をすべて森調理場で調達することは難しい現状です。食材価格についても、飯南学校給食センターに調達されるものより価格は高騰し、これに伴って1食単価が高くなっています。

施設も一部45年が経過しており、施設の修繕や調理機器を更新するにあたっても大きな施設を想定しなければなりません。また、耐震基準を満たさない施設であり、近年の災害状況をみると、安全を確保する意味においても継続をしていくことは厳しいと考えています。平成24年、29年に開催された学校給食推進委員会においても、森調理場の存続について討議されていたので、議題として入れさせていただきました。

平成24年には、香肌小学校に新しい調理場を作って、飯高東中学校と飯高西中学校にも持っていこうという計画がありましたが、この計画は飯高西中学校と飯高東中学校が合併したことでなくなっています。

また、平成29年には、森調理場を施設や調達の面から飯南学校給食センターへ統合してはという話がありましたが、この時は今のように調達が不可能ではない中で、飯南学校給食センターへ統合したいという流れでした。耐震基準を満たさない施設であるような様々な理由の中で協議が行われましたが、地元協議が整わなかったという経過があります。

今回は、食材の配達ที่難しいという事業者からの依頼があり、話を進めています。

《委員長》

ではみなさまよろしいでしょうか。

以上で本日の審議議題は終了となります。進行を事務局にお返しいたします。

《事務局》

委員長ありがとうございます。皆様ご審議をいただきありがとうございます。

続きまして事項書7その他です。こちらからは今後の予定をお伝えさせていただきます。

第2回給食推進委員会を1月頃に開催したいと考えています。皆様のご都合がよろしければ、今日より1時間早いのですが1月20日の2時からを予定しているのですがご都合いかがでしょうか。

ありがとうございます。また近くなりましたら、通知させていただきます。今回はこちらでしたが、次回会場はベルランチを予定させていただきたいと思っております。第2回学校給食推進委員会はベルランチにて1月20日2時からです。よろしくお願いいたします。

第2回は国の動向を注視しながらですが、またメリットデメリットを提示させていただきたいと思ひますし、先ほど資料4として提案させていただいた森調理場についても客観的な意見をいただけたらと思ひます。よろしくお願いいたします。

委員の皆様より、その他の事項でご質問やご意見はございますか。

《委員長》

今日話し合った議事録につきまして、この2回目のときにお示しいただけますか。

《事務局》

はい。させていただきます。

《委員長》

よろしくお願いいたします。

《事務局》

本日は皆様の貴重なご意見ありがとうございました。引き続き松阪市の学校給食につきましてご協力のほどよろしくお願いいたします。

これをもちまして令和7年度第1回学校給食推進委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。